

平成29年6月8日開会

平成29年第2回東松島市議会定例会

会派代表質問通告書

東松島市議会

《 会派代表質問 目次 》

平成29年第2回定例会

順位	会派名 代表氏名	件	名	頁
第1位	市民クラブ 代表 佐藤 富夫	1	新市長の所信を問う	2
第2位	清風・公明 代表 五ノ井惣一郎	1	市長のマニフェストについて問う	3
		2	29年度予算執行について伺う	4
		3	市政執行についての所信を問う	5
第3位	清新会 代表 滝 健一	1	新市長の重要継承事項および独自の推進手法、新たな方策案について	6
第4位	復興クラブ 代表 上田 勉	1	選挙公約と初年度復興の加速と地域づくりに向けての優先順位を問う	7

氏名	件名	要旨
<p>第1位</p> <p>市民クラブ</p> <p>代表</p> <p>佐藤富夫</p>	<p>1. 新市長の所信を問う</p>	<p>(1) 市長は前市長の市政の継承を掲げ当選した。発展的復興と加速、そのモデル市を目指すとしているが、同政策は順次遂行してきたものであり、変わりはない。人々は、復興政策はもちろん、新たな渥美市政に期待をし、投票行動をしたと推察されるが、阿部市政との違い、渥美市政の目指す目玉は何か。</p> <p>(2) 復興にはもちろん、国の財政支援は不可欠、4年後の復興庁の閉鎖、日本列島各所の天災等々を考慮すれば今までの手厚い支援は望めないのでは、の危惧もある。国の動向を踏まえた市長の所見を伺う。</p> <p>(3) 市長は8つの市政執行についての所信を表明した。以下について伺う。</p> <p>① 総体的に経費と人材確保が不可欠な事業、特に英語を始めとする外国語力、専門知識を要するものについての所見は。</p> <p>② (5)の友好姉妹都市の関係であるが、2市1区1村2外国との交流を行っている。いずれも時間、金、人を要することも現実問題、高々4万人の市としては、飽和状態とも思えるが、経費を考慮した場合の所見を伺う。</p> <p>③ (6)について、整備が進むほど、将来的に石巻市との境がなくなることが想定される。とすれば石巻市と何らかの連携が必要になる。これについての所見は。</p> <p>④ (7)について、一次産業の充実はもちろんであるが、大規模雇用につながる、企業誘致政策は示されていない。その構想は。</p> <p>⑤ 所信の一端とはいえ、行財政改革について述べられていない。近い将来復興予算をはじめ国の支援は縮小の傾向にある。加えて本市の財政状況はここ数年で右肩下がりになることは間違いない事実。入るものが少なくなれば、出るものを極力抑えるのは、理の当然、行財政改革の具体的考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第2位</p> <p>清風・公明</p> <p>代表</p> <p>五ノ井惣一郎</p>	<p>1. 市長のマニフェストについて問う</p>	<p>市長に立候補するに当たり、これまでの行政・政治経験と豊かな人脈を生かし、ふるさと東松島市の復興・発展に全力で頑張りますと公約された。就任以来1カ月余りが経過したが、改めて公約された「7つのマニフェスト」について伺う。</p> <p>(1) 平成32年度末に復興庁が廃止されますので、今後の4年間が大変大事な年となります。東松島市の復興まちづくり計画に合わせた予算確保で復興を加速で完結すると共に心の復興と地域コミュニティ再生にも努めます。</p> <p>(2) 企業誘致による働く場所の創造で、人口減少対策、雇用対策を推進すると共に、商工・観光（奥松島）復興、ならびに若人が集うまちづくりの実現に努めます。</p> <p>(3) 東松島市の基幹産業である農業・漁業の復興・再生をはかり、6次産業化による農村漁村の活性に努めます。</p> <p>(4) 幼児教育無償化を国に訴えると共に、子育て支援策を拡充し、女性がいきいきと活躍できる東松島市の実現に努めます。</p> <p>(5) 高齢化社会の到来に備え、福祉の充実、パークゴルフ場の設置による健康保持増進、医療体制の確保に努めます。</p> <p>(6) 人材育成、国際化への対応、学力向上、文化・スポーツの復興と青少年の健全育成に努めます。特に少子化の中で頑張っているスポーツ・文化少年団体への支援拡充を計ります。</p> <p>(7) 松島基地との共存共栄を基本に、石巻工業港、JR仙石線8駅及び三陸道3インター・矢本パーキング、松島自然の家等、国・県の施設を活用した地域復興に努めますと公約しているが、次の点について伺う。</p> <p>7つの公約には財政を伴うが、事業への手法・財政的課題への考えがあるか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第2位</p> <p>清風・公明</p> <p>代表</p> <p>五ノ井惣一郎</p>	<p>2. 29年度予算執行について伺う</p>	<p>平成29年度は骨格予算であり、本定例会の補正予算も予算事業の関連事案である。今後、新市長としての政策執行に補正計上の考えがあるか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第2位</p> <p>清風・公明</p> <p>代表</p> <p>五ノ井惣一郎</p>	<p>3. 市政執行についての所信を問う</p>	<p>所信の中で、復興の加速化とともに人口減少や少子高齢化に対応するため、国の財政支援制度を活用、観光、産業振興や地域コミュニティの活性化、健康寿命の延伸等の取り組みにより、交流人口の回復、移住定住の促進、雇用の創出など「地方創生」の実現を目指すとするが、「分野別施策」の中から伺う。</p> <p>(2)「備」命を守る備えに地域で取り組む「安全で安心」の中で、消防団員用にデジタルトランシーバーの購入があるが、現場で活躍する団員の充足率が下がっている消防団の確保対策と提言であるが、他の市町村では、女子消防団の組織が増えてきている。女子消防団員については、議論した経緯があるが、考えを伺う。</p> <p>(4)「伸」子どもたちが伸びやかに育つまちの中で、コミュニティスクールの導入を図り、地域と連携して学力体力向上を図り、学校専門相談員を中心に引き続き不登校の児童生徒への細やかな対応をするとある。これらを含め今、話題となっている、生徒のいじめについてどのような対応を考えているか伺う。</p> <p>(6)「住」快適で便利な誰もが住み続けたいまちの中で、石巻市と接続する小松・赤井線の改良舗装工事等の周辺整備を進めるとあるが、この路線は都市計画道路として、早くから要望している案件だが、今後の見通しはどのようになっているか、今後も強く要望しなければならないが、考えを伺う。</p> <p>(7)「働」働きがいのある魅力的な産業があるまちの中で、事業支援体制整備等による販売体制の充実により6次産業化を一層の推進を図るとあるが、その考えを伺う。</p> <p>(8)「信」市民と行政が結ばれているまちの中で、地区自治会制度により、個人情報が多く地区民に漏れていると感じている区民がいる。このことについては、地区説明会の時から指摘されている案件である。今後市民との情報共有を本格化する少子高齢化に対応した地域自治協働の体制を整えるとあるが、考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第3位</p> <p>清新会</p> <p>代表</p> <p>滝健一</p>	<p>1. 新市長の重要継承事項および独自の推進手法、新たな方策案について</p>	<p>東日本大震災から6年と3カ月経過した。これまで進められた住居の再建は防災集団移転住宅用地の整備は、7団地717区画地全てが、昨年11月完了し、被災した皆様へ引き渡しされたところである。また、災害公営住宅は野蒜ヶ丘に今月82戸、さらに8月88戸合わせて170戸が完成することになっている。残りは追加整備を行う柳の目西地区に30年度完成を目指しての準備が進められている。公共施設の整備は宮野森小学校の完成をはじめ、矢本東、野蒜両市民センター、市震災復興伝承館、宮戸地区復興再生多目的施設「あおみな」等が完成し、供用開始されている。今後の取り組みとして重要と思われる次の点について、新市長として重要継承と位置付ける事項および独自の推進手法や今後の新たな方策案について伺う。</p> <p>(1) 被災された皆様が安心して暮らせる心の復興の取り組み。</p> <p>(2) 移転する皆様の新たな生活とともに、支えあえるコミュニティ形成を目指した地域づくり。</p> <p>(3) 家庭環境の大きな変化を余儀なくされる児童、生徒の震災の後遺症対策。</p> <p>(4) 人口減少や少子高齢化に対応するため、国の財政支援制度を活用した「地方創生」の実現施策。</p> <p>(5) 所信で強調されている健康寿命の延伸。</p> <p>(6) 市民の健康な生活を守るため検診について継続的に行うとしている検診の受診率向上対策。</p> <p>(7) 市民自らの知識や経験、学んだ成果等を地域社会の中で活かし還元していく仕組みづくり。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第4位</p> <p>復興クラブ</p> <p>代表</p> <p>上田勉</p>	<p>1. 選挙公約と初年度復興の加速と地域づくりに向けての優先順位を問う</p>	<p>市長は、選挙公約で活力あるふるさと再生に向けて、7つのマニフェストを掲げ復興の加速化、被災者支援の充実、復興の完結を目指すとし、これからの市政執行の所信、方向性の概要を述べた。</p> <p>所信では、8つの分野別施策に基づき述べていたが、公約であるマニフェストを主体とし、復興クラブを代表して次の点について伺いたいと思う。</p> <p>(1) 地域振興と企業誘致</p> <p>復興の加速化と復興庁廃止前に行う予算確保は、急務である。生活安定基盤の確保そして心の復興を重視しながらの事業は、この4年間スピード感を持って推し進めなければならない。「県の東京事務所への職員派遣」と地域産業振興施策について伺う。</p> <p>(2) 福祉の充実と子育て支援の在り方</p> <p>人口減少に伴う福祉事業は、地方自治体の永遠の課題である。福祉事業の行うべき内容は多岐にわたるがそのうち介護事業・介護予防施策に言及し質問する。</p> <p>国が行う地域創生事業の中で、この震災後の地域おこし、移転先地における被災者包括支援をはじめとする福祉関連事業の充実が重要である。</p> <p>関連する次の事業などについて伺う。</p> <p>① 介護予防と各自治会の取組事業の支援について</p> <p>今年度は、国や県からの交付金などで一応のスタートが切れるが、先に述べたように復興庁が廃止されるまでには、産・学・官・民と具体的なアプローチを完成させる必要がある。</p> <p>今年から始まった自治会制度移行に伴う地域コミュニティ活動の中で、新しいふるさとにふさわしい住民自治の中で、特にあおい地区が目指す高齢者のための見守り活動、介護予防をはじめ子育てのための地域交流、ふ</p>

氏名	件名	要旨
<p data-bbox="177 309 279 347">第4位</p> <p data-bbox="209 427 247 685">復興クラブ</p> <p data-bbox="209 824 247 913">代表</p> <p data-bbox="209 1055 247 1200">上田</p> <p data-bbox="209 1339 247 1377">勉</p>		<p data-bbox="608 309 1423 577">れあい活動が、近い将来は、行政・社会福祉協議会・大学などと一体的な事業への進展が望むことができれば、東松島市が震災を契機に新たなまちづくりの一助となり、その取り組みが全市に波及させることができ、一石二鳥の成果となると考える。</p> <p data-bbox="639 595 1040 633">今後の方向性について伺う。</p> <p data-bbox="608 651 1011 689">② 子育て支援事業について</p> <p data-bbox="608 707 1423 913">子育て支援については、既に新しい施設、教育委員会や福祉部で事業展開されているが、「伸」の項にもあるが待機児童対策、放課後児童事業について初年度の方向性について伺う。</p> <p data-bbox="608 931 1011 969">③ 日体大との協定について</p> <p data-bbox="608 987 1423 1193">2020年の東京オリンピックを目指して各自治体は各国の誘致活動を積極的に行っている。友好関係のあるデンマーク王国との交渉や機会を見ての誘致活動は重要である。</p> <p data-bbox="608 1211 1423 1368">日体大との関係が震災復興や子育て、福祉事業にも大きくかかわっていることを忘れてはいけない。より積極的に新体制では、関係を持つべきと思うがいかがか。</p> <p data-bbox="608 1386 1107 1424">④ 移転地での生活環境整備について</p> <p data-bbox="608 1442 1423 1541">今年の6・8月には、全災害公営住宅が完成し、いよいよ待ちに待ったふるさとづくりが始まる。</p> <p data-bbox="608 1559 1423 1765">最初に入居した、小松南住宅から5年が経過した。当初から、移転先地における生活環境改善に関する諸問題を職員は解決してきたがまだまだ解決すべき諸問題がある。一つ一つ解決していく必要がある。</p> <p data-bbox="608 1783 1423 1989">例えば、あおい地区の北側水路の安全対策は急がなければならないし、水路を挟む南北通路は橋が一本でありその一本も車両が通行できない状態にある。橋の拡幅と歩道の追加および車両の通行できる状態にする必要が</p>

氏名	件名	要旨
<p>第4位</p> <p>復興クラブ</p> <p>代表</p> <p>上田勉</p>		<p>ある。</p> <p>また、これに併せ現在の南北通路から北への道路は避難道路として重要であり、市道小松・赤井線までの延長整備が必要である。</p> <p>(3) 松島基地との共存共栄</p> <p>前市長は協力協調を柱として12年間市政運営した。共存共栄の意味することは字のごとくだが、国の外交・防衛のありさまを理解しながら、本市が位置する諸問題、生活環境整備や生活水準の向上を思うとき、重要な方向転換となる言葉である。</p> <p>次の点について伺う。</p> <p>① パークゴルフ場建設に関する諸対策と今後について</p> <p>市長が県議のころから政策の柱の一つとしていた復興関連事業のうち海浜公園関連事業とパークゴルフ場クラブハウスと駐車場建設について</p> <p>② 駅前道路と避難道路の位置付けおよび予算の裏付けについて</p> <p>圃場事業と基地の係留地のかさ上げと市が行う高盛道路の一体的復旧事業はかねてから職員が一丸となって進めてきたが、復興予算と防衛補助事業との調整が必要である。</p> <p>今後の方向性について伺う。</p> <p>③ 災害に強い街づくりについて</p> <p>市長はかねてから政治的活動の中で各種災害対処や危機管理について言及してきた。私も前市長には、自衛隊出身の危機管理監の必要性を問うてきたが、実現できなかった。あらゆる事態に対応できる人材と市が必要とする基地対策関連諸問題をはじめ関係機関との調整が今の時代専門に即する人材が不可欠である。</p> <p>市長の考えを問う。 【答弁を求める者 市長】</p>

